

祐善寺だより

第36号

発行日

2016年7月5日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



長島・邑久光明園にある納骨堂前において、療養所内で死亡された同朋を偲び、集会参加者全員により勤行が勤まりました。



邑久光明園内に設置された火葬場では、平成十二年まで療養所入所者自身の作業によって、火葬されていました。その跡地には、四十九体の胎児の遺骨を納めた石碑「しのび塚」が建立され、毎年法要が営まれています。

瀬戸内・長島の ハンセン病療養所を訪ねて

住職 岡崎 賢

去る四月十九日から二十一日まで、姫路船場別院と瀬戸内に浮かぶ長島愛生園・邑久光明園を会場にして、真宗大谷派ハンセン病問題全国交流集會が開催され、参加しました。

私は、大学が福祉系の専攻でもあったために、随分昔からハンセン病問題には、関心がありました。一度、是非、長島にあるハンセン病療養所を訪ねたいとの思いがありましたが、このたび、ようやく、その思いが実現しました。

らい予防法という法律によって、らい病（ハンセン病）が発症するや、患者さんは、家族や地域から切り離されて、主に離島に設置されているハンセン病療養所に強制的に入所させられたという差別の歴史があります。

そのらい予防法も、廃止されて今年で二十年を迎え、ハンセン病療養所から社会復帰をされておられる方も増えてきていますが、療養所入所者の方の平均年齢が八十四歳を超え

てきており、地域復帰、社会復帰が叶わずに、療養所でお亡くなりになられる方が増えてきているのが実情です。

私は、長島の療養所に横たわる公園から瀬戸内の海を眺めていた時、この島の療養所に隔離されたハンセン病の患者さんたちは、きつと、毎日、この風光明媚な海をみつめながら、望郷の念にかられて涙する日々を過ごし、無念の死を遂げていったのだろう、と想つと、私の眼にも涙がにじんでいました。そして、もっと早くこの地に来るべきだったと後悔していました。

真宗大谷派（東本願寺）は、宗教教団の中で最も真剣に、ハンセン病問題に取り組んでいます。私も、今回の交流集會に初めて参加し、ハンセン病回復者の方々や全国の仲間と交流させていただいた事実を重く受け止め、ハンセン病問題に関わり続けていきたいと願っています。

「祐善寺納涼祭2016」を 開催します!!

☆とき 七月二十四日(日) 午前十一時より

☆内容 正信偈おつとめ 仏様のお話し

餅つき大会／流しそうめん大会／ビンゴ大会／
ゲームコーナー／合奏 等々

☆参加費 五百円(但し、中学生以下は無料)



「納涼祭2016」 ボランティアさん募集

今年も祐善寺納涼祭を開催
します。納涼祭にお手伝いし
て頂けるボランティアさんを
募集しています！

(お手伝い内容)

- ・餅つき大会、流しそうめん
大会の準備、運営等
- ・ゲーム大会、ビンゴ大会の
準備、運営等
- ・会場設営、後片付け等

☆ご協力下さる方は、大変お
手数ながら祐善寺までお電
話下さいますように……

今年の納涼祭は右記の通り、七月
二十四日(日)午前十一時より開催しま
す。今回、催しものに、織田ウクレ
レクラスタの皆様、ウクレレ演奏
をお願いしています。また、皆さん
と一緒に歌える曲も用意しています
ので一緒に歌いましょう。本堂で
は、子供さんと一緒に聞いていただ
けるお話をします。家に帰ってか
らも「こんなお話聞いたね」って
会話になれば嬉しいですね。

に遊びのコーナー、スイカ割りをし
ます。
日頃、寺へは、なかなか行かない
方は多いと思いますが、このような
機会を捉えて参加してみると、それ
がきっかけで出向くようになる。そ
うなれば嬉しいことです。誰だか知
らない方々も沢山いらっしやいます
が、袖触れあうも他生の縁、「こん
にちは」ようこそいらっしやいまし
た」の一言から知り合いたいと思っ
ます。

しばらくの間ですが、元気な様
子、そつでない近況、さみしい事嬉
しい事、そんな顔を合せましょう。お
待ちしています。

〈納涼祭実行委員長 上野養治〉



平成二十八年度の 年忌法要を お勤め下さい!!

本年度の年忌は左記のとおり
でございますので、貴家
の過去帳等を御確認してい
ただき、皆様にとられてかけが
えのない御先祖様の年忌法要
を是非、勤めて下さいませよ
う、お願いいたします。

- 五十回忌 昭和四十二年没
- 三十三回忌 昭和五十九年没
- 二十五回忌 平成四年没
- 十七回忌 平成十二年没
- 十三回忌 平成十六年没
- 七回忌 平成二十二年没
- 三回忌 平成二十六年没
- 一周忌 平成二十七年没



『花』

覚えていないからといって
日の昇らないことが
あったらどうか
見えなかつたからといって
月がなくなつたことが
あったらどうか

同じように

お姿が見えないから
お声が聞こえないから…
と

この世に神様・仏様が
おられないと誰が言えよう



私達が生きるこの世の中で
昨日も今日もそして明日も
有難い仏様や神様が
私達を幸せにするために
お疲れも厭わず心を込めて
いつでも努めていて下さる
昨日も今日もそして明日も…
もしも貴方が
野の花達の美しさ神秘さに
気付いたなら
それは直ぐに分かるはず

神様・仏様をおいて他の誰に
美しく清らかなあの花達を
咲かせることが出来ようか

花は無心 花は清らか

花は心を癒やす妙薬

花は心に

新たな力を注いでくれる

花は仏様・神様の化身かも…

(G)



平成28年度護持費の志納よろしく申し上げます

祐善寺を永代に亙って護持
していただくために、護持費を
お願いしておりますが、今年も
次のおりご志納下さいますよ
うよろしく願います。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座

(〇〇七七〇—九一三〇七二一)

・ 加入者〓祐善寺

へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

本堂向拝濡れ縁・格子戸・
庫裡囲炉裏室 改修工事が完成!!

感謝します



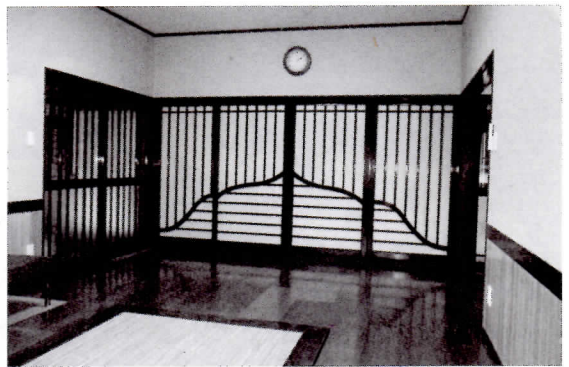
野村 明良

かねてより本堂向拝濡れ縁の張替えについて、大変気になっていました。濡れ縁の板が節くれだつて、子どもの足にソゲが刺さったり、靴下が破れたりしていました。このたび、桑原文子様のお懇志により、立派に張り替えられました。もう、ソゲが刺さる心配もありません。心から、御礼を申し上げます。また、傷みがきていた本堂の格子戸につきましては、住職様が、自ら思いを立て、取替えられました。もう、戸を開ける時の、きしむような音も、聞かずに開閉できます。祐善寺も、以前と比べて見違えるようになり、大変嬉しく、感謝の念でいっぱいです。



本堂向拝濡れ縁は、板が真新しく仕替えられ、見違えるよう。もう、ソゲが刺さることもなくなりました。隙間だらけだった本堂格子戸も、全面格子が入ったガラス戸に仕替えられ、本堂内も明るくなりました。

く、煙がこもって煙たく、そのために、煤けて、周りが真っ黒になるばかりで、囲炉裏をふさぐことになりました。しかし、若院様が、囲炉裏には、ばあちゃん(前坊守様)との思い出がまつまっている。等々との色んな思いがある。若院様には、囲炉裏に対する大変な執着心があるとの思いを感じ取り、囲炉裏の炉を残し、今後、必要な時には、薪を焚かずに木炭を焚くようにして利用する



薪を焚いて煙で真っ黒だった囲炉裏室は、全面化粧直し。残した炉では、これから必要に応じて木炭を焚きますが、煙ることはありません。

ようにしたい、と思っています。

薪を燃やして黒ずんでいた囲炉裏室周辺は、改修工事も終わり、皆様から大変喜ばれていることに、心温まる次第です。本当にありがとうございました。

おくやみ

桑原ブン様(越前町清水)には、平成二十七年十月十九日、行年九十八歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前のご功労に、心より深謝申し上げます。

渡邊トモ子様(越前町小倉)には、平成二十七年十二月九日、行年八十六歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前のご功労に、心より深謝申し上げます。

山内新吉様(越前町杖立)には、平成二十七年十二月二十七日、行年七十九歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前のご功労に、心より深謝申し上げます。

野村八郎様(福井市つくも)には、平成二十八年二月十五日、行年九十八歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前のご功労に、心より深謝申し上げます。

三ツ谷智様(福井市つくも)には、平成二十八年五月十七日、行年七十五歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前のご功労に、心より深謝申し上げます。

第五回

親鸞聖人御絵伝
蓮位夢想



建長八年（一二五六年）二月九日の明け方、親鸞聖人の弟子の蓮位房が、京・西洞院の庵室で、聖徳太子の夢を見られました。その夢とは、聖徳太子が親鸞聖人に向って合掌礼拝され、「大慈悲の阿弥陀如来様に敬って礼拝いたします。あなた様は、勝れた教えを伝えることによって、全ての人々を

導くために、この世にお生まれになられた尊いお方でありませぬ。…」と云われたというものでした。

このことから、親鸞聖人は、阿弥陀如来様の生まれ変わられたお方であることが、明らかであります。

この図は、その夢の中の場面です。図左手の、板の間の畳を敷いたところに立っておられるのが親鸞聖人で、その前に膝まずいておられるのが聖徳太子です。

親鸞聖人は、黒衣墨袈裟を着け、手に念珠を下げています。聖徳太子は、頭髪を角髪に結んでいます。

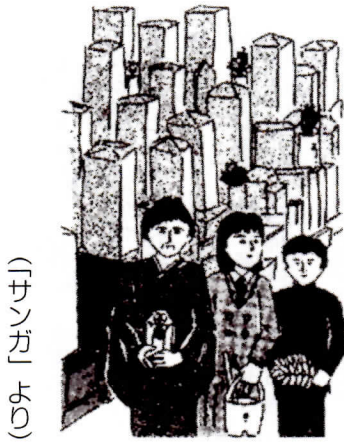
板の間の奥の方に、別の畳を敷き、枕を当てる眠っている僧が、蓮位です。この夢の中に、親鸞聖人と聖徳太子が現れたという様子を描いているのです。

「親鸞聖人御絵伝」

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を広く讃えんがために、親鸞の曾孫に当たる本願寺第三世覚如上人が親鸞聖人の求道の歩みを詞を著し、初稿本の絵は、親鸞聖人の直弟西仏房の孫、淨賢法眼に描かれています。詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において御絵伝四幅を余間に奉掛し、厳肅に御伝鈔が拝読されます。（参考文献『親鸞聖人伝繪』）

前回は、納骨についてお話ししました。いうまでもありませんが、納骨には、遺骨を納める場所が必要になります。その一つには、寺院の境内墓地や地方公共団体・公益法人などが経営する墓地があります。この墓地の使用には、個人の墳墓としての永代使用権を得なければなりません。もう一つは、寺院などが設けている屋内を利用した納骨堂です。いずれも、規則がありますので事前に調べておくことがよいでしょう。このような個人で使用するもののほかに、共同で多数の遺骨を納めることのできる合葬墓を設けている寺院などもあります。また、前号で紹介した親鸞聖人のお墓所でもあります京都の大谷祖廟は、全骨が納められる合葬墓といえます。

ところで、現代人のお墓に対する意識もさまざまなようです。一九八九年にルポライターの井上治代さんが行った「現代の墓に関する意識調査」（現代のお墓事情）創元社刊に所収）があります。それによりますと、「お墓には誰と一緒に入りたいか？」（複数回答可）の質問に対し、「夫婦で」が三六・二%、「家族で」二四・九%、「自分の両親と」一八・八%、「先祖と」二五・九%の順だったそうです。逆に、「死んでまで家族に縛られるのはいや」「死んだ時ぐらいいつくりたい」「誰かと一緒というのは煩わしい」などの理由から、「一人で入りたい」と希望する人もあるようです。別の調査では、お墓は「自分の死後の住まい」と考える人が増えてきたということです。こうしてみると、死後を生の延長として見、他人と関わりたがらない現実を死後へ持ち込もうとしているのが、現代人の特徴のようです。お墓をどう受けとめていくのか、そのことは実は私たちの死生観が問われているのです。生前中、熱心な間法者だった四国讃岐の庄松さんは、「おれは死んでも石（お墓）の下にはおらぬぞ」と言われたといいます。この言葉は何を意味しているのでしょうか。次回に考えてみたいと思います。



〔サンガ〕より

其の32

事 一口メモ

お墓(1)

お知らせ

永代経会

八月七日(日)

十一時半

御齋

一時

福井県日吉太鼓

一時半

永代経会法要

二時

法話 徳永寺前住職

平等明信師

三時半

物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人から願いをかけられて生かさせていたでいる私達が、亡き人に感謝申し上げる法会であります。

このかけがえのない法会に、ご家族、ご親族、ご法友お誘いあわせの上、何卒ご参詣下さいませよう、ご案内申し上げます。

合掌



ボランティア募集!!

寺周辺の

草刈り作業奉仕

と き 七月十七日(日)

八時集合

持 物 草刈機もしくは鎌、軍手等

昼 食 用意します

傷害保険 加入します

小 雨 決行します

炎天下で恐縮ですが、ご協力頂ける方は、十五日(金)までに祐善寺までお電話下さい。

草刈り作業のみならず、刈り草運びや草むしり等の作業もありますので、どなたでもご協力いただけます。

皆様、どうかよろしくお願ひします。



祐善寺納涼祭2016

「ご案内」

七月二十四日(日)

午前十一時 開会

「メニュー」

● 正信偈おとめ

● 仏様のお話し

● 流しそつめん大会

● 餅つき大会

● ピンゴ大会

● 輪投げ・すいか割り大会

● 賛助演奏

● 織田ウクレレクラスタの皆様

● 募 金

● 熊本大地震救援金

● 参加費

● 一人五百円(中学生以下は無料)

右の通り今年も「祐善寺納涼祭」を開催させていただきますので、ご家族、ご親族、ご近所の皆様をお誘い合わせてご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

梅雨明けの真夏の一日、仏様の前で、皆で楽しい想い出を残しましょう！

編集後記

★早いもので、前坊守「愛子さま」が、亡くなられて一年が過ぎようとしています。(合掌)

★今年も、日々、蒸し暑い日が続いています。門徒の皆様は、どうお過ごしでしょうか。

★さて、今年は八月五日から八月二十一日の間、まちに待った四年に一度のスポーツの祭典「リオ五輪」いよいよ開幕だ。

★大会競技の中で、興味をそそるスポーツはバドミントン、勝山市出身の十八歳、山口茜さんが出場、是非ともメダルを福井県に！健闘を祈りたいものです。しかし、負けたとしてもまだ若い、目指せ四年後、東京五輪！

★次は、福井県勢四人(武生商業高校出身)が代表の座を射止めたフエンスシング。ママさん選手、佐藤希望に期待したい。「四人が納得できる試合をしてメダルを持って帰るのが目標」と決意を示している。がんばれ「希望」。

★最後に、女子ホッケーチーム「さくらジャパン四大大会連続出場」。しかし、越前町の期待の星「野村香奈さん」少し残念。しかし、バックアップメンバーの一人「必ず出場機会があるよ。」あきらめないでね！

★がんばれー日本!!

★納涼祭、永代経会にお参り下さい。

(上野) (三)